

携帯電話による出席(取り)システムの改良と学生の反応

Attendance Management System: it's modification and the feedback from Students

浅井 洋
Yo ASAI

The attendance management system that is described in Asai (2006) has been used in the past three years.

This system has been modified so that photos of each student can be added to the system.

This paper describes how modification was made as well as the feedback from students.

1. はじめに

私が比治山大学の講義で携帯電話を使って出席を取って3年半が過ぎました。稼働していた携帯電話による出席(取り)システムを学期の終わりに見直し、今回の顔写真付きの出席表でシステムが稼働できるか、学生が受け入れるかに挑戦しました。

2. システム変更の理由

昨年の紀要の「携帯電話による出席システム」は順調で、履修生の数は以下であります。

○2006年後期(世界と日本 184名)(世界と共に 125名)(企業広報 74名)

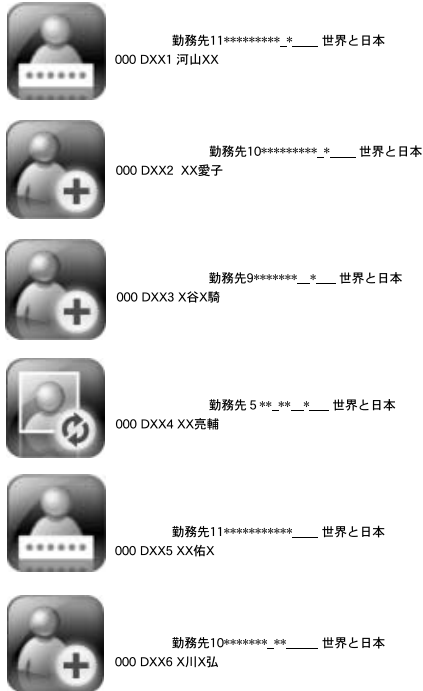
○2007年前期(異文化理解 119名)(現代の文化 114名)(世界と日本 117名)(世界と共に 158名)

システムの問題はありませんが、これだけの人数の学生とほぼ1週間で毎日、顔をあわせると、教師として学生の顔と名前が一致しなくなります。

教育の基本は学生の顔と名前を覚える事ではないかと考え直し、出席データと顔写真の統合を試みたものです。

3. システム構成

基本的には昨年とおなじですが顔写真を付けました。



顔写真

学生が何回休んだだけでなく15回の講義のうちいつ休んだかを見ただけでわかるように‘-’（ハイフン）と‘*’（アスタリスク）の表示にしました。

学生番号	氏名	フリガナ	ゼミ	講義名	出席回数	出席状況
000DXX1	河山XX	カワXXXX	A先生	世界と日本(前)	11	*****-----
000DXX2	XX愛子	XXアユコ	B先生	世界と日本(前)	10	*****-*****--
000DXX3	X谷X騎	XタXXキ	C先生	世界と日本(前)	9	*****--**----
000DXX4	XX亮輔	XXXXリョウスケ	D先生	世界と日本(前)	5	**-*-*-*-----
000DXX5	XX佑X	XXXXウヱリ	A先生	世界と日本(前)	11	*****-----
000DXX6	X川X弘	XカワXXヒロ	B先生	世界と日本(前)	10	*****-*-----
000DXX7	X葉X子	XハXXコ	B先生	世界と日本(前)	9	*****-*-----
000DXX8	鳴X和X	ナルカスX	D先生	世界と日本(前)	5	**-*-*-*-----
000DXX9	X田X司	XXタXXシ	B先生	世界と日本(前)	8	*-*-*-*-----
000DXX10	森X愛X	モリXアイ	B先生	世界と日本(前)	8	*-*-*-*-----

注) ‘-’（ハイフン）は欠席 ‘*’（アスタリスク）は出席

出席回数表

4. システム開発と運用

開発と言うほどではありませんが、同大学の中里先生にお手伝い頂き、2003年度卒業生の奥田純也が運用を行いました。

実際には画像を処理するために使用するパソコンを Windows から Apple のMac に変更する以外ソフト開発に費用をかけないしました。

特別に表やカードを処理する事無く、住所録（アドレスブック）の形式を拝借しました。それ故講義項目を記載する欄の表示に住所、電話番号と表示されます。

携帯電話による出欠確認で進んでいる青森大学の様に全学生の全講座ですと、多少は手の込んだシステムが必要ですが、費用をかけず現場の手作業の範囲で対応しています。

5. 写真の収集

5-1. 受験票や入学時の写真の活用

学校の事務が管理する、受験票や入学時の写真を活用する事も考えましたが、2-3人の学生でテストしました処、高校生から大学生への変身は著しいものがあり、幼い顔で現在の学生を判断できず、断念しました。

5-2. 講義後の写真撮影

映像データとしての写真を集める為に、講義終了後に写真撮影をする事としました。当初、男子に関しては写真撮影に尻込みすると予想しておりませんでした。しかし女子大の気風の残る当大学であるので、女子は写真撮影になると、「美人でないから、もっと奇麗に取ってほしい。」と難航し当初は30%程度の写真があつまれば良いのではと考えておりました。

実際に2つの講座で写真撮影を試みた結果は次でありました。

世界と共に（125名の講義 で45人が撮影しました。）

世界と日本（184名の講義 で36人が撮影しました。）

6. 写真を撮られたくない理由

6-1. 表向きな理由

顔写真を準備する段になり、先生が生徒の顔を「記憶」で記録しても良いが、一人一人の顔写真を取ると「プライバシーの侵害」と発言する学生もでました。しかし個人情報の何たるかを知る学生はすくないし、法律の文章を知っている者も殆どいない。

6-2. 奇麗に見せたい

自分が奇麗に見えるなら写真に写りたい、でも比較されて美人品評会（コンテストと学生が呼ぶ）になる可能性を恐れて、写真に取られたくないが本音の所かとおもいます。

7. 写真撮影をした人数と撮影に要する時間

撮影の際に予め

「教室内で、出席表の写真は他人が見る事を妨げない、学会等で浅井が使用する事は反対しない。」

と了解をとりました。それ故、本人が掲載を了解した映像を載せるとしたので、デジカメ（小型カメラ）でなく、直ぐ画面で表示できる Appleの Mac 本体で撮影し、本人の了解を得てからデータとして取り込みました。

当然の事なのですが、「本人が画面で確認して、了解を得られる映像が直ぐ撮れる」訳でもなく取り直しの回数が増えます。実際の回数は紙に書いて記録には残してませんが感覚として

予想に反して

○男子 平均4回

○女子 平均2回 で 男子は手間取るでした。

一人最高10回の男子がいました。

一人当たり所用時間が2分から10分でした。

8. 写真を持ち込む男子が現れた

イケメン（外見の良い）と自ら思い込む男子が現れました。

9. 学生の映像に対する反応

現在の学生さんは

○大学は高校と違って、席も、名前も隠せるからうれしい

○比較が表の形や進学先の学校で競争を無理にさせられないからうれしい

と言う意識が高く、同じ講義を聴く学生は顔見知りで互いに挨拶程度はする感覚から遠いのです。

しかし、他人の情報はほしい希望は各人がもっています。また撮影の際に予め肖像権の了解をとってありしたので顔写真と名前を講義の間に映像として大型スクリーンや大型テレビの画面で流しました。

映像が流れだすと一挙に教室の中が静かになりました。注目しています。講義を聴いて静かなのか、顔を眺めて静かなのかは不明ですが、講義はしやすかったです。

また後日学生よりもう一度映像をながして欲しいと要望がありました。

「私も写真を取って。」と希望もでしたが全員が掲載して欲しいと言う要求は有りませんでした。

10. 学生の連帯感

携帯電話の利用で出欠の確認は容易ですが、学生同士の連帯と言う問題にぶつかりました。また映像がいくら揃っても、情報が整っても500人の学生の顔と名前を半期毎に覚えるのは体力の限界と思いい撮影は中止しました。

しかし撮影時間さえ許せば、全員が写真の撮影の用途が出席の確認と僕の論文発表なら了解は取れると思います。書面による同意は取っておりませんが口頭で了解の上、撮影しましたので。

11. まとめ

個人情報だから駄目といってNOから入る日本人ですが、講義の間に学生の顔写真を流すと、実際には興味のある学生が多いので、クラス全体も纏まり、あとで私も写真に入れて下さい。という学生が増えて来ます。

高校時代の不登校の子も写真には出て来て、むしろ過剰な個人情報保護で自分を守っているけれども、本当は皆と仲良く過ごしたいという気持ちも現れています。

統計的な数字も持たず、アンケートの分析も行わず、限られた断片からの推論だけではありますが、お互いがよく知り合う機会を講義中に与えられたのではと思っています。

学生の行動は日本を象徴していて自分は安全な日本に居て、世界の戦争は知りたい。人の情報は欲しいが、自分の情報を公開するのは嫌だ。なのかもしれません。

参考文献 拙稿「携帯電話による出席（取り）システムと学生の反応」（『比治山大学現代文化学部紀要』第13号，2006）

浅井 洋（言語文化学科国際コミュニケーションコース）
(2007. 10. 31 受理)